

# 農産 F A X 情報 第 3 号

令和 8 年 6 月 15 日

ゆとりみらい 21 推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

## 1 ばれいしょ

### ○疫病の防除

- ・疫病は着蕾期～開花始期に茎葉に発生し始め、多湿条件で急速にまん延します。
- ・北海道病害虫防除所の HP で公開している「ばれいしょ疫病初発予測 (FLABS)」の「危険期到達日」を参考にほ場をよく確認しましょう。
- ・降雨などにより、ほ場に入れないことが予想される場合は、ダブルインターバル (14 日間の防除間隔) 効果のある薬剤を使用しましょう (表 1)。



FLABS の HP

表 1 疫病・夏疫病の防除例

薬剤名	該当病害名		希釈倍率(倍)		使用回数 (以内)	使用時期 (収穫前)	RAC番号
	疫病	夏疫病	通常	ダブル インターバル			
グリーンダイセンM水和剤	○	○	400～600	-	10	7日前まで	M3
フロンサイドSC	○	○※	2,000	1,500	4	7日前まで	29
ホイスントライフロアブル	○	○	1,500	-	4	14日前まで	27, 11
プロポーズ顆粒水和剤	○	○※	1,000	750	5	7日前まで	40, M5
リライアブルフロアブル	○		1,000	800	3	7日前まで	43, 28
レーバスフロアブル	○		1,500	1,500	2	7日前まで	40

※ダブルインターバルでは夏疫病に登録がない。

### ○害虫の防除

- ・ナストビハムシ、オオニジュウヤホシテントウ発生の時期となります。食害による被害が大きい場合は、防除を行きましょう。
- ・南部地域ではアブラムシの発生が例年より早い6月上旬より確認されております。ばれいしょの葉裏をよく観察し、発見次第防除を行きましょう。

## 2 秋まき小麦

### ○赤かび病防除

- ・出穂にバラツキがあるほ場が散見されます。全ての穂に薬剤がかかるよう、複数回防除を実施しましょう。
- ・耐性菌の発生を抑えるため、同系統薬剤の連用は控えましょう。

○アブラムシについて

- ・一部ほ場で発生が確認されています。ほ場を確認し、発生が多い場合は薬剤散布を行ってください（表2）。

表2 アブラムシに登録がある薬剤例

薬剤名	系統名	希釈倍率	使用回数	使用時期	RAC番号
モスピランSL液剤	材コチノイト	4,000倍	2	7日前まで	4A

※ムギクロハモグリバエに登録あり。

### 3 てんさい

○根腐病・葉腐病の防除

- ・6月下旬頃に初発し、高温多湿が2、3日続くと全面に広がります。排水不良や連作・短期輪作ほ場では6月中旬から早めに防除を行いきましょう（表3）。

表3 根腐病、葉腐病の防除薬剤例

薬剤名	系統名	希釈倍率	使用回数	使用時期	RAC番号
ミリオネアフロアブル	SDHI	4,000倍	4	7日前まで	7
アミスター20フロアブル	QoI	1,500倍	3	14日前まで	11

※根腐病は株元散布で登録あり。

○褐斑病の防除

- ・前年に発生があった場合は伝染源が多くなると予想されることから、早めに防除を実施しましょう。

※マンゼブ剤の散布間隔は14日ですが、高温多湿の気象条件下では残効期間が短くなるため、高温多湿が続く場合は散布間隔を短くしてください。

○ヨトウガの防除

- ・北海道病害虫防除所によると、ヨトウガの発生期は例年より早く、発生量が多いとされています。ほ場を観察し、被害株率が50%に達した時を目安に薬剤散布を実施すると、幼虫を効率的に防除できます。

◎農薬散布時のドリフトに注意！

◎水分・塩分補給で熱中症対策！！

◎安全確認を行い、農作業事故防止！！！！